

<紛争の影響を受けた子どもたち> 「大切なメンバーの命を守り、事業を継続させるリーダーとしての責任」



ICAN ミンダナオ事務所
Jesus B. Torreto

私は、2012年にアイキャンへ入社してから、ミンダナオ島において平和構築事業のチームリーダーとして、紛争地の子どもたちが平和の概念について学ぶことのできる「平和の学校」の設立、そして、地域レベルの紛争調停を担う村役員や過去に武力衝突を繰り返してきたグループへの紛争の平和的解決手段についての研修を実施してきました。今回、紛争地における安全対策について学びを深めるために、タイで開催された UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）主催の研修に参加しました。

研修で特に学びが大きかったのは、チームに分かれて、紛争地における事例をもとに各々の役職を決め実施したロールプレイ（疑似演技）です。私のチームでは難民キャンプにおいて、キャンプの代表者と食糧提供の調整を行う設定に取り組みました。状況は混沌としており、難民たちが「食糧はいつになったら届くのか！」と大声で叫び、私たちの鞆を奪おうとしたり、他のメンバーを別の場所に連れて行こうとしました。そのような状況下で、私はチームリーダーとして、難民の代表者に対し、「食糧の調達に想定以上の時間がかかっているが、食糧は必ず届ける」という点を誠実に伝え続けました。しかし、観察していた講師からは「チームリーダーの第一の責任は、全体を見渡して、メンバーの安全を確保することであり、メンバーが他の場所に連れて行かれそうになっている場合は、即座に安全確保を最優先すべき」という厳しいコメントをもらい、私にとっては耳に痛い言葉でした。

私自身も、過去ミンダナオ島で緊急救援活動を実施していた時に、身の危険を感じたことがあります。例えば、食糧を運搬中に、検問所において、軍隊が「食糧を一部引き渡さないと、検問所を通さない」と言い、警告として空に向かって銃を発射しました。また、他のチームメンバーが事業地へ向かっている際に、軍隊同士の銃撃戦に遭遇して、危険な目に遭ったこともあります。どちらのケースでも何とか収拾をつけることができましたが、対応方法を間違えば命の危険もありました。



今回の研修を通して、改めてチームリーダーとしての責任を重く感じました。紛争地での事業実施において安全対策を整えることは、大切なメンバーの命を守るだけでなく、事業を応援してくださっている皆さんの想いを、継続的に事業地の人々に届けることにも繋がります。研修で学んだことをチーム内で共有し、安全対策を強化し、引き続きミンダナオ島の平和実現に向けて活動していきます。

ごみ処分場周辺に住む子どもたち 10月13日／パヤタス(フィリピン) マニラ日本人学校のバザーに参加



マニラ日本人学校で毎年行われているPTAバザーに、SPNP（パヤタスごみ処分場での生計向上事業から2005年に独立した女性フェアトレード団体）とアイキャンが参加しました。参加者からは「毎年買っているよ！」

などの声を頂き、SPNPのビーナさんは「毎年PTAバザーでは多くの小学生が来てくれ、売り上げがとても大きい。SPNPにとっても大切なバザーである。」と話しました。

国際理解教育事業

10月18日／愛知

中学生6名のアイキャン事務所訪問



学校の郷土学習としてアイキャン事務所を訪れた犬山中学校の中学1年生6名を対象に、アイキャンの活動とフィリピンの路上の子どもたちについて話をした後、ボランティア作業をしてもらいました。参加者は「家族

や友人に話をしてアイキャンの活動をより知ってもらい、文具や古本、ハガキ等の寄付活動が広がってほしい。」と話し、自分たちにできることを考えるきっかけになりました。

紛争の影響を受けた子どもたち 10月13日-15日／ホデイダ(イエメン) 戦闘の激しいホデイダ州で約42,000人分の食糧提供を実施



イエメン国内において最も戦闘が激化しているアル・ホデイダ州において、3日間で600世帯（約42,000人分）への食糧提供を実施しました。同州では、6月からの戦闘激化によって、国内避難民の数が増え続けています。地元行政府のメンバーは、「日本のNGOであるアイキャンの寛大な食糧提供と、実施に関わる全ての協力者たちに感謝したい。」と述べ、その様子はイエメン国内のニュースサイトでも報道されました。

MY アイキャン事業

10月20日／愛知

伝え方を意識した募金への声掛け



イエメンの子どもたちのための街頭募金活動を実施しました。今回から、配布するチラシをリニューアルし、渡し方を工夫したところ、結果として前回の倍くらいの方に受け取ってもらえました。参加したボランティアの方からは「どうすれば

通行人の方の心に伝わり、興味や関心を持ってくれるのか。そこまで意識して考えて声掛けをする必要がある。」と、次回への改善に向けた意見が出ました。